

# 議会広報特別委員会議員派遣結果報告書

平成 20 年第 2 回定例会において議決された議員派遣について、次のとおり実施したので、その結果を報告いたします。

平成 20 年 9 月 2 日

上富良野町議会議長 西 村 昭 教 様

議会広報特別委員長 岩 田 浩 志

## 記

### 1 調査の経過

議会広報特別委員会は、議会の活動をよりわかりやすく町民に知らせるための広報誌発行に関する調査研究のため、平成 20 年 8 月 18 日から 20 日までの間、先進市町村であるむかわ町で視察、調査を行い、北海道町村議会議長会主催の議会広報研修会へ出席した。

また、道新札幌印刷「フムフム館」、北海道新聞本社への見学も実施し、紙面づくりの基本等について研修を行った。

### 2 調査の結果

#### (1) 議会広報研修会

北海道町村議会議長会主催による議会広報研修会に出席し、広報プランナーの和田雅之氏による「議会報づくりと時代の潮流」と題した講演をうけた。

講演では、最近の新聞・雑誌の編集に見られる傾向にふれ、新聞では芸能欄を大きくし、雑誌ではより多くの情報を掲載するようになってきていること。また、活字を大きくし、ぱっと目を引くものが増えてきていることなどの点があげられた。

読者が求める議会広報としては、情報をスピード感をもって伝えることであり、町民は「今何が知りたいのか」また、議会報として「何を伝えたいのか」「何を伝えなければならないのか」を判断し、それをわかりやすく書くことが重要である。

テレビやインターネットの影響で、「読む」よりも「見る」という傾向があるので、大きくインパクトのある見出しで読者の心をひきつけることが必要。しかし無意味に大きな見出しでは逆効果になってしまうので、注意が必要である。

紙面づくりの基本や美しく、読みやすく、わかりやすい紙面という点では、紙面の右上から左下へ流れるような文章の配置が読みやすいレイアウトであり、関連記事はまとめて掲載することが注意点とされた。そのためにラフスケッチをつくりイラストや写真を効果的に用いる工夫が必要である。

見出しは内容を正しく、短く伝えることが重要で、役所用語は使わないようにすること、見出しによく使われている「について」という表現は非常にあいまいで、

わかりづらく、好ましくないとの指摘があった。

## (2) 先進市町村行政調査

むかわ町

調査テーマ 議会広報の編集について

町の概要 人口 10,035人 4,525世帯 (平成20年7月末)

調査の概要

- 1 創刊年月日 平成18年7月31日
- 2 名称 「議員でつくる 議会だより」
- 3 発行回数 年4回(各定例会後、翌月の末日発行)
- 4 発行予算 1,017千円/年 4,800部発行

むかわ町は旧穂別町と旧鶴川町の合併により誕生した町である。合併前にもそれぞれ議会広報は発行されていたが、合併によりどう調整したのか、また、一問一答方式の議会広報への掲載方法等について調査を行った。

むかわ町の議会広報は「議員がつくる 議会だより」とされており、議員誰でもが作れるものを目指していた。

合併による広報誌の調整については、委員会開催当初に、お互いに良いと思った部分を取り入れ、編集の基本姿勢や基本方針などについてしっかりと話し合いがなされており、現在の発行規程につながっていた。

議会広報委員会が特別委員会の扱いではなく、任期が4年とされていた。また、副議長及び各常任委員長を広報委員会の委員とすることになっており、編集作業は広報委員会が行うが、発行・編集の責任者は議長であるということからすると、議会全体で発行しているという意識が強く感じられた。

広報誌は6段組で統一され、写真が多く、特に難しい語句には「言葉の解説」をつけるなど、よりわかりやすく伝わるような工夫がされていた。

## (3) 道新札幌印刷「フムフム館」・北海道新聞本社

フムフム館での印刷作業と北海道新聞本社のどちらでも感じたことは、新聞はスピードが求められ、それに対応するために多くの人の力が注がれているということである。テレビやインターネットの普及が著しいなか、いかにそれらに負けずに情報を届けるかという点で工夫と努力が感じられた。

「今何を伝えるべきか」、「記事に間違いがないか」、「読者に読みやすく書かれているか」という姿勢は、議会広報づくりにおいても同様のことで、このような気持ちを念頭に置きながら取り組むことが重要であると感じた。

最近、新聞紙面の文字が大きくなっており、以前は1段15文字だったものが今は10文字になっている。少ない文字数でわかりやすく伝えることは非常に難しいことだと考えるが、見出しの効果や文章のまとめ方などは参考にすべきであると感じた。また、新しい情報を伝えるだけでなく、地域性を重視して読者の立場にたった新聞づくりに取り組んでいたこともとても参考になった。

## まとめ

今回の研修において、議会広報に求められていることを再確認することができた。町民が「今、何が知りたいのか。議会として何を伝えたいのか」を考え、発行の目的と原点を忘れずに広報誌の作成に取り組まなければならない。

また、定例会終了後翌月の25日とすでに発行日が決まっている議会広報の中で、スピード感を求めることは難しいかもしれないが、その分、議会広報を読めば「なぜそうなったのか」という経過がわかりやすい形で伝わるような広報誌の発行にむけ、努力が必要である。

議会広報の編集にあたっては、議会で審議されたことを公平・公正かつわかりやすく伝えなければならない。さらに、町民の声を取り入れたり議会に関心を持っていただけるような議会広報を目指し、広報委員が主体となり「住民に愛される議会広報」をつくっていかなくてはならないと強く感じた研修であった。